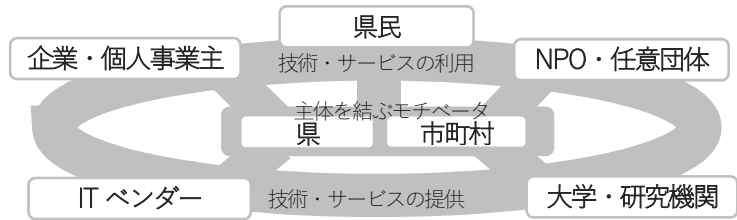


デジタル技術の進展による新たな可能性の広がりやライフスタイルの大きな変化等を踏まえて、「千葉県 ICT 利活用戦略」（令和元年9月策定）に DX（デジタル・トランスフォーメーション）の理念を反映し、「(仮称) 千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略」を新たに策定する。

第1章 基本的な考え方

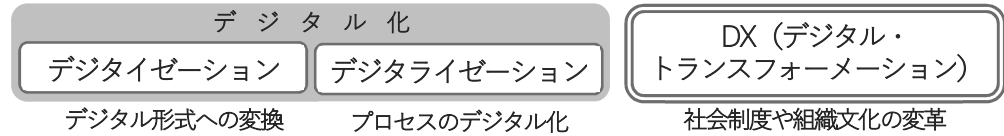
1. 策定趣旨 「人」が主役のDX 「共に」進めるDX
2. 対 象 7つのプレイヤー（①県、②市町村、③県民、④企業・個人事業主、⑤NPO・任意団体、⑥IT ベンダー、⑦大学・研究機関）
3. 位置付け （1）県のDXのビジョン（2）「県政運営を貫く3本の矢」の一つとして総合計画を支える（3）官民データ活用推進基本法に基づく都道府県計画
4. 戦略期間 計画終期の設定はせず、随時更新していく「成長する戦略」 ※取組期間及び目標設定は、今後3年間（R4～6）



第2章 課題・目指す姿

1. 時代背景・現状

- (1) DXをめぐる社会動向
- ・2030年代の我が国のデジタル経済・社会の将来像（Society5.0 など）
 - ・デジタル技術の活用によるSDGs達成への貢献
 - ・DXとは…単なるデジタル化だけでなく、デジタル技術の活用による新たなサービス・価値の創造等を通し、社会制度や組織文化なども含め、目指す姿に向けてより良く変革していく。



(2) DXをめぐる国の動向

- ・自治体DX推進計画、デジタル社会の実現に向けた重点計画 等

(3) DXをめぐる本県の現状と課題

本県の「強み」 ・高度な研究拠点・大学等が多数存在 ・ICT利活用推進をコーディネートする機関が多数存在 ・先進的な取組の豊富な実績 ・インターネット・スマートフォンの高い普及率 ・首都圏に立地する優位性、成田空港 ・半島性ならではのライフスタイルの実現 ・高い総合力（豊かな緑と海、観光地、優れた都市機能や社会資本、バランスの取れた産業構造） ・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー	本県の「弱み」 ・IoTやAI等の活用が不十分 ・オープンデータ等の利活用不足 ・半島性による地理的制約
本県をとりまく「機会」 ・ネットワークの高速・大容量化・無線化の進展 ・IoTやAI等の技術革新 ・デジタル化に伴うデータ活用機会の拡大 ・オープンイノベーションの進展 ・交通ネットワークの拡充	本県をとりまく「脅威」 ・人口減少・少子高齢化 ・生産設備や産業インフラの老朽化 ・社会インフラ等の老朽化 ・多様な行政ニーズの高まり ・地球温暖化

2. DXをめぐる主要課題

- 社会の変化への柔軟な対応
- 多様な人材・能力の活用
- 県内産業の生産性向上

3. DX推進により目指す姿

DX（デジタル・トランスフォーメーション）

県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会を目指す

DX推進により目指す姿の具体像

暮らし

あらゆる人が暮らしやすい社会

- ・社会資本の充実と人と環境にやさしいまちづくり
- ・防災・危機管理体制の構築
- ・安全・安心な暮らしの実現
- ・共生社会の実現
- ・子育て環境の充実

仕事・生きがい

誰もがどこでも能力を発揮できる社会

- ・ライフスタイルに応じた自由、多様な働き方の実現
- ・年齢や障害の有無や言葉の壁に左右されず働ける環境の実現
- ・多様な教育機会の実現
- ・シェアリングエコノミーの実現
- ・誰もが文化芸術・スポーツに親しめる千葉の実現

産業

生産性の高い産業に支えられる社会

- ・中小企業等の力強い事業展開
- ・工業分野における高い競争力
- ・本県の強みを生かした高度な物流・交通網の実現
- ・医療・福祉分野の生産性向上による増大したニーズへの対応
- ・農林水産業の成長力の強化
- ・国際観光県CHIBAの実現
- ・環境保全・持続可能な社会の実現

行政

スマート県庁・行政の実現

第3章 目指す姿の実現に向けた取組

1. 実現に向けた各プレイヤーの役割

県は自らの DX を推進するとともに、① 県全体の DX の牽引、② 市町村 DX 推進への支援に取り組む。

2. 取組の推進に当たって留意すること

(1) 「人」を中心にした DX の推進 (2) 実効性の確保 (3) 個人情報の保護と情報セキュリティの確保

3. 実現に向けた県の取組

(1) 行政の DX

サービスデザイン思考

サービスを利用する際の利用者の一連の行動に着目し、サービス全体を設計する思考

「行政」の DX

① デジタル技術の活用等による業務効率化

ペーパーレス化や BPR の推進、ICT ツールの活用による業務効率化、テレワークの推進、Web 会議の推進

② 行政手続・サービス等のデジタル化

マイナンバーカードの普及・活用、行政手続のデジタル化、キャッシュレス決済の推進

③ オープンデータ利活用の促進

オープンデータの整備と利活用の促進（官民の共創推進）

④ デジタル化に対応できる人材の育成

デジタル人材育成研修等の実施

⑤ 市町村 DX 推進への支援

自治体情報システムの標準化・共通化、スマート県庁への取組を生かした市町村 DX の支援

(2) 個別施策の体系

「暮らし」の DX

① 社会資本・まちづくり

ICT 技術等を活用したまちづくり、
インフラ分野の DX の推進（再掲）、
水道事業におけるデジタル技術の活用、
ICT を活用した歩行者移動支援の普及促進

② 防災・危機管理

AI 等を活用した防災・危機管理対策の一層の強化、
防災・危機管理関連システムの運営、
感染症等健康危機への対応力強化

③ 安全・安心

防犯・交通安全等タイムリーな情報提供の推進、
捜査支援システム等による捜査基盤の強化、
警察業務のデジタル化推進、
障害者の緊急通報支援

④ 共生社会

多言語による災害・医療情報の発信、
障害のある人への IT 支援、
ICT を活用した歩行者移動支援の普及促進（再掲）

⑤ 子育て

子育て支援の促進

「仕事・生きがい」の DX

① 働き方

働き方改革の推進、 ワークেশョンの促進（再掲）

② 人材育成

学習活動の充実のための ICT 活用の推進、
学校における ICT 活用推進のための支援体制の整備、
専門機関等と連携した情報教育の推進、
県立高等技術専門学校における IT 人材の育成、
離職者等に対する IT 知識の習得のための職業訓練、
SNS を活用したいじめ防止や不登校児童生徒支援に
向けた相談

③ 生涯学習

図書館サービスの利便性向上、
生涯学習情報の提供

④ 能力発揮・活躍の場

地域しごとマッチング支援、
障害のある人への IT 支援（再掲）

⑤ 文化・スポーツ

デジタル技術を活用した文化振興、
デジタル技術を活用したスポーツ振興、
博物館・文化財情報の提供

「産業」の DX

① 中小企業等産業支援

中小企業のデジタル技術活用支援、 インフラ分野の DX の推進

② 医療・福祉

健康・福祉・医療情報の提供、 診療・介護・検診データの活用、
従事者負担軽減等のためのデジタル技術の活用促進、
救急搬送時における医療機関の受け入れ状況の見える化

③ 農林水産業

スマート農業の推進 { スマート技術の普及・現地実証、農業大学校における
スマート農業教育の推進 等 }、
スマート水産業の推進 { 人材育成等の基盤づくり、水産現場への新技術実装の
加速化 }、
森林クラウドの活用推進、 次世代農林水産業に対応した先導的研究の推進

④ 観光・交通・移住定住

外国語 SNS を活用した魅力発信、
観光マーケティング等に係る調査・分析の高度化、
ワークেশョンの促進、 デジタル技術を活用した移住定住の促進、
MaaS 等のデジタル技術を活用した公共交通の利便性向上の促進

⑤ 環境

カーボンニュートラル実現に向けた再生可能エネルギー 設備等の導入促進、
有害鳥獣対策への ICT 機器の導入促進

(3) 推進を支える土台づくり

① 共創の機会の創出（千葉県 DX 推進協議会等の活用、県内 ICT 関連事業者等の活性化）

② 知識の普及や機会の提供（セミナー開催等）

第4章 推進体制及び進捗管理

1. 推進体制

・県における CIO（最高情報責任者）と CIO 補佐官を設置。
・全庁横断組織の「千葉県 DX 推進委員会」や有識者等で構成する「千葉県 ICT アドバイザリー会議」、
産学官民の「千葉県 DX 推進協議会」、市町村との「自治体 DX 推進に係る連携調整会議」等により推進。

2. 進捗管理

① 進捗確認 → ② 有識者等からの助言 → ③ 関係者との意見交換 → ④ 戦略の更新・フィードバック

3. 指標一覧

・定量的な成果指標と数値目標を設定

